

## 「カラマツの新芽」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

カラマツは漢字では「落葉松」と書く。日本の針葉樹の中では、唯一秋に葉を落とす樹木である。北軽井沢にはカラマツの樹が非常に多い。かつて草原だった高原の土地に、盛んに植林した結果である。晩秋にカラマツが一斉に葉を落とす様は、まるで金色の雪が降ってくるようで、実に美しい。その北軽井沢のカラマツも、やっと新芽を出し始めた。



「浅間高原のカラマツ林」 2015, -4, 25 撮影

モミ(樅)のような常緑針葉樹の場合、完全に葉のない枝から新芽が出るということはない。しかしカラマツの場合、冬の間は完全に葉を落としていたので、落葉広葉樹と同じように芽吹く姿が見られる。



カラマツの枝は、低い場所にはないので、なかなか手折ることができない。はしごを立ててやっと一枝採ることができた。それをスキャナーに直接載せて、少しずつ解像度を上げて、拡大撮影してみた。すっかり茂っているカラマツでは気づかなかったが、枝に対する葉のつきかたは「互生」とわかる。一つの冬芽からは、細い葉がひしめくように出ている。これが、数日で長く伸びて、あの細い葉を一斉に茂らせるのだろう。この形は何に例えればいだろう。今度2年生の子どもたちに写真を見せて、聞いてみようと思う。